

平成19年 4月24日  
消 防 庁

「水難事故における救助活動について」の報告書の公表

水難事故における救助活動は、危険な環境条件の中での活動になることから、二次災害の危険性も高く、救助活動のなかでも極めて危険性の高い活動のひとつです。

そのため、消防庁においては、平成18年度に「救助技術の高度化等検討委員会」（委員長：蓼沼 朗寿 全国過疎地域自立促進連盟専務理事）を設置し、「水難事故における救助活動」について検討を行いました。

この度、同委員会の報告書が完成しましたので、その報告内容を公表します。

特に今回の報告では、新たに河川等の流水域についての救助活動に関して検討を重ね、「流水救助活動時の基礎知識」、「流水現場の特徴等」、「流水救助活動時の装備」及び、「活動要領」等について記載しました。

報告書の概要については、別紙のとおりです。

【別添資料】

[「救助技術の高度化等検討委員会報告書」の報告書](#)

<連絡先>

消防庁国民保護・防災部参事官室 坂野補佐 皆川係長

電話 03-5253-7507

FAX 03-5253-7576

## 「流水救助活動」のポイント

### 1 流水救助活動時の基礎知識

「事故の形態」「流水救助活動の定義」「流水救助活動の特徴」及び「流水における負の要因」の内容について記載

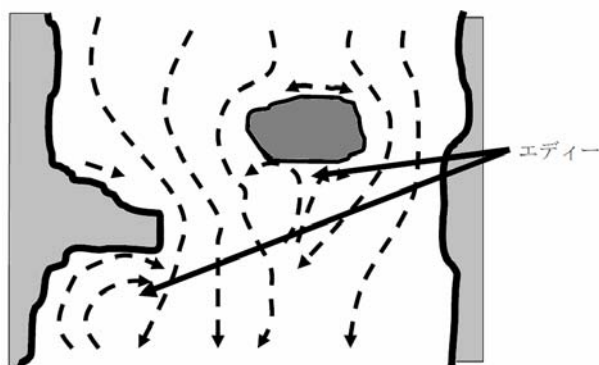
### 2 流水現場の特徴等

「流水救助活動における一般的な専門用語」「流水救助現場の危険性」の内容について記載

[記載例]

#### ・エディー（反転流）

岩等の障害物に流れがぶつかると下流側（背後）にできる逆流する渦のことで、エディーは流れが穏やかであり要救助者を救出する場合はここへ誘導する。

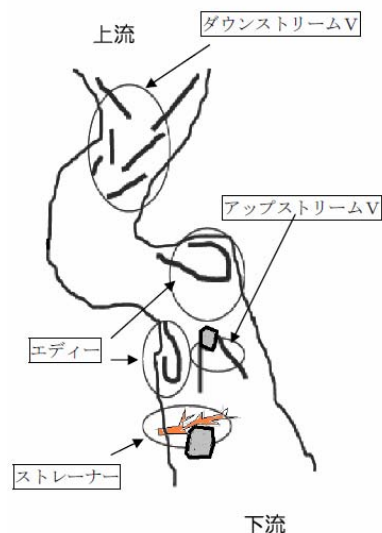
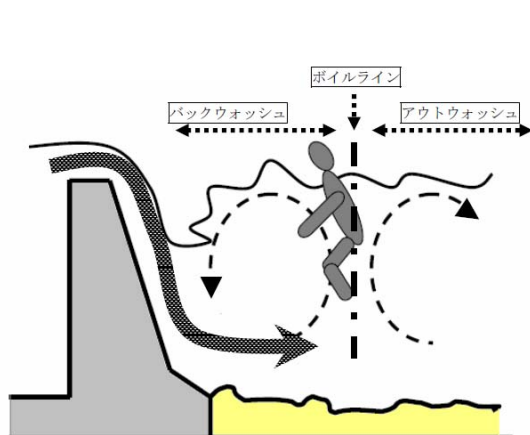


#### ・ローヘッドダム（人工の低いダム）及び水中の岩付近で起きる現象

回転しながら循環する水流は落ち込み部分に吸い付けられるようにボートや要救助者を飲み込んでしまう。

水流の落ち込みでは、その下流で水面付近の水が逆流していることをバックウォッシュ、アウトウォッシュという。

ホールの下流側で湧き上がる上昇流では空気混入率60%に上がることがあり、救命胴衣を装着していても浮力が無くなる。



### 3 流水救助活動時の装備例

[記載例]

- ・救命胴衣（PFD）



従来の救命胴衣より大きな浮力を有し、緊急解放ベルト等が装備された流水救助用の救命胴衣

- ・水難救助用ヘルメット



軽く水に浮き、流水による水圧等を減少するための水抜き穴のある水難救助用のヘルメット

### 4 活動要領

[記載例]

- ・各隊の配置

救命索発射銃等で、流れに対して斜めにロープを展張（テンションダイオゴナルという）する（ザイルを使用し、3～9倍力で展張することも有効）。上流には上流域監視警戒隊、下流にはスローバックを装備した下流域活動隊1を配置する。さらに下流域活動隊1の下流には下流域活動隊1が失敗した時に備え、下流域活動隊2を配置する。

